

◆麦とポップ「門司港レトロ大正浪漫100年祭」缶 サッポロビールが北九州市門司区の門司港レトロ地区で開催中の「大正浪漫100年祭」を記念し、数量限定で発売したオリジナルデザイン缶（350ml・6本入り）。門司区には2000年まで同社のビール工場があった。同市を中心とした北九州エリアで3000ケース（1ケース24本入り）を販売する。オープン価格。（同社お客様センター＝0120・207・800）



商品街

◆卵の粕漬 鹿児島県指宿市の漬物製造・販売会社「中国久太郎商店」が売り出した新商品。市内の麓地区にある、温泉の



蒸気を利用したかまど「スメ」でふかした温泉卵を、酒かすに漬けた。酒かすの風味豊かな味わいが楽しめる。当分は注文を受けて販売する。2個入り210円。（0993・34・1180）



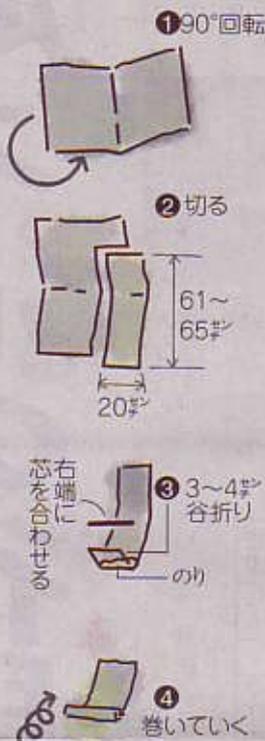
「木の鉛筆より手になじみますよ」とペパ鉛筆の作り方を説明する加来さん

福岡市東区のNPO法人「新聞環境システム研究所」は、新聞紙で作る筆記具「ペパ鉛筆」の普及に力を入れている。考案したのは、法人理事の加来睦博さん（48）だ。2年前、古新聞などで鉛筆を製造している米国や韓国のメーカーがあるのを知り、それをヒントに試行錯誤して作り方を編み出した。依頼に応じて、公民館や小学校などで教えているほか、企業や飲食店からの注文も受けている。主な活動は、古新聞を

鉛筆にもなった

ち込んだ市民に地域通貨「ペパ」を渡し、地下鉄やバスの乗車カードの割引券

ペパ鉛筆の作り方



ペパ鉛筆の作り方を、加来さんに聞いた。まず、新聞紙を縦61〜65mm、横20mmの長方形に切る。これで直径8mmの鉛筆ができる。新聞紙を縦に置き、手前か

ら3〜4mmの所を谷折りにして開く。その折り目の上の方に塗り、鉛筆の芯を紙の右端に合わせて置く。再び谷折りにして芯を固定し、そこを起点に縦方向に巻いていく。

巻き終わりをのり付け乾いてから左端をはさみりそろえ右端を手動の鉛筆で削る。芯はホームセーラーなどでも購入できる。ルペンの芯でも代用でき

として使ってもらおうという独自の仕組みの運営だ。新聞紙を使った手作りバッグ「ペパバッグ」の作り方をイラスト付きで解説したハンドブック「歩く森」（350円、送料別）も発

行。ホームページ（http://www.pepa.jp/）で開いている。ペパ鉛筆は1本80円で100本以上から販売。芯は500本以上から送料込み5000

円。のけののが防止に

洗濯物の下に新聞紙を広げる竹井さん。

「除湿機がわりに活用しています」とほほ笑んだ（福岡県筑前町）＝泉祥平撮影

ぬれた靴に新聞紙を詰めるのを早く乾く。インクうつりが心配な時はキッチンペーパーでくるんで

く、そうした特性を

漬けた。酒かすの風味豊かな味わいが楽しめる。当分は注文を受けて販売する。2個入り210円。(0993・34・1180)



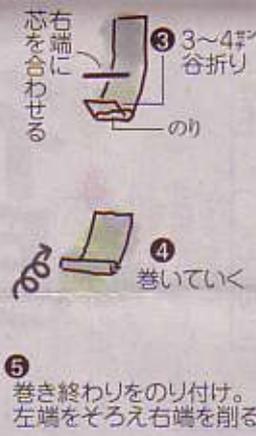
●ごまじる 大分県竹田市の「まつや食堂」が店内で提供する名物「ごまうどん」に使っているたれ。煎ったゴマをミキサーにかけ、しょうゆ、砂糖、酒、菜種油を加えた。香ばしい風味とコクが特徴。釜揚げうどんにつけたり、冷ややっこやほうれん草にかけたり、様々な料理に応用できる。1本200ミリ・㍈。1箱(2本入り)1600円。全国発送可。送料は一律600円。(0974・63・2105)

●長崎びわドリンク JA全農ながさが「ビワの産地日本一」をPRしようと企画。規格外などの実から種や皮を取り除いてピューレにし、濃度を調節して瓶詰めしている。とろりととした舌触りと柔らかな甘みが特徴。昨年4月に発売し、今年4月からはビワの味わいにより近づけるため、果汁割合を10%増の30%にした。1本495ミリ・㍈入り1050円。(長崎県農協直販=095・820・2090)



●夏みかんマーマレード 山口県萩市の柚子屋本店が製造、販売。市特産の夏ミカンのピール(皮)を使っており、程よい苦みとトロリとした口溶けを楽しめる。トーストやクラッカーに合うほか、スペアリブなどの料理の隠し味にも使える。1本(160㍈)630円。ホームページ(<http://www.e-yuzuya.com/>)から購入できる。(0838・25・7511)

を谷折りにし、右端に芯を合わせる。3~4㍈谷折り。のり。右端に芯を合わせる。4 巻いていく。5 巻き終わりをのり付け。左端をそろえ右端を削る。



完成



◆ペパ鉛筆の講習会 23日午前10時半から、福岡市東区三苫のNPO法人「循環生活研究所」で。定員10人。参加費300円。問い合わせは平日午前9時~午後5時に同研究所(092・405・5217)へ。

●純米吟醸酒「錦の露」 江戸時代創業の蔵元が前身の酒店「錦の露」(熊本県玉名市)が販売。全国酒類品評会で1位を取ったこともあるという先代の味を、熊本市の蔵元の協力を得て69年ぶりに復活させた。原料には、JAたまなが栽培した酒米「吟のさと」を使用。1.8㍈入り3150円、720㍈入り1680円、300㍈入り630円。(0968・74・2015)



●純米濁酒「しこたま」 宮崎県国富町の豆腐店「ほけだけ八町坂」が、国のどぶろく特区認定を受けて、町内で無農薬栽培した「イセビカリ」を原料に醸造した。口当た



りの良い仕上がりが特徴。14日前後までに予約すれば、父の日(19日)のギフトとして、名前入りの和紙のラベルを貼って販売する。1本(720㍈)3980円。(0985・78・1883)



【駅情報】大分県中津市本耶馬溪町曾木2193の1 ☎0979・523030

栽培し、毎年、約20㍈を収穫。駅が全量を引き取り、粉にして保存している。石臼

【かわいい情報】青の洞門 菊池寛の小説「恩讐の彼方に」で知られるトンネル。奇岩が見事な景観を織りなす競秀峰、3000体以上の石仏が並ぶ羅漢寺も近い。